

《芦屋市制》 誕生前夜 点描

精道村のころの芦屋

■精道村の誕生

明治十二年(一八九九)は、大日本帝国憲法が公布された(二月十一日)歴史の年でもしたが、また市町村制が実施され、芦屋村・津知村・三條村・打出村の旧四村が合併し、「精道村」が誕生した記念すべき年でもありました。

「精道村」の村名は、精道小学校の校名から命名されました。この校名は、西宮の学者豊田政吉が書いた「養精修道」の語から二字を選んだといわれています。

また精道村役場は、芦屋樋口新田(現在の精道小学校内)に設けられました。その後、大正十一年に、現在の市役所北側に、鉄筋コンクリート造三階建ての、当時日本一といわれた村役場が新築されました。

明治以前の芦屋の生業は、主として農業と漁業、また芦屋川の急流を利用して水車産業などでした。

■高級住宅地としての発展

明治維新以後、大阪・神戸の二大都市が近代都市としての新たな発展を始め、ことに日清・日露戦争を経てその発展は目覚ましくなりました。

そんな中、二大都市近郊に位置する芦屋の地は、両市に興隆した当時の実業家たちの注目を集めることとなりました。

そして、明治三十八年の阪神電車開通を機に、阪神芦屋駅周辺の芦屋川扇状地を中心に、これら実業家たちの邸宅が建ち始めました。次に、明治四十年には、大阪府立高等医学校長であった佐多愛彦氏が、その専門とする結核病学的立場から、芦屋の山手地帯を阪神間第一の健康地と喧伝し、自らも別荘を建て、松風山荘住宅地の基を開きます。

阪神間モダニズムの開花



大正4年ごろ、芦屋川を渡る阪神電車。明治38年4月開通時、芦屋・打出駅が設置された。

■ライフスタイルの変革

明治以後の工業化に伴う生活環境悪化によるためか、大阪市内に店を構える商人・弁護士・医者をはじめとする富裕な階級は、近代的生活の第一歩として、空氣の良い、緑豊かな地での生活を求めました。

中でも、山・海・明るさといった自然環境の条件が満たされた阪神間に、人気が集まりました。

当初別荘地として求められていた阪神間は、やがて阪神電車の開通とともに、通動可能な生活居住地として脚光を浴びるようになります。

彼らの求めた生活とは、自然の恩恵を受け、高尚な趣味や研究テーマを持ち、加えて娯楽が提供されることでした。それまでの日常生活は考えられなかったモダンな生活が提唱され、現実のものとなり始めます。



大正時代、芦屋遊園(兼平橋南付近)を走るタクシー。

そして、この時期の生活スタイルこそが、今日の生活スタイルの基盤となつたものと考えられています。

芸術家たちの芦屋

阪神間の雰囲気をも早く吸収したのは、画家 中川一政(一八九三-一九一九)でしょう。彼の回想録には、「大正三年、私は摂津の芦屋にいた。裸で浜へ行く距離のところに蒲田という家があり、詩人の富田砕花が家族のようにしてあり、私を呼んでくれた。中略当時の芦屋は松林の中に流れひびいていたが肉屋がアメリカ帰りであったり、ミッションスクールがあったりとどこかハイカラなところがあったと記しており、その当時、深江の酒蔵を描いたのが中川の画家としての第一歩でした。」

大正の初期、画家の山崎樺之助と福井一郎も芦屋に住んでいました。山崎が京都から健康地を求め、結核の療養のために訪れていたのに対し、福井は實業家の家に育ち、芦屋に別荘を構えていました。芦屋にも、当時の阪神間に移り住んだ人々の典型を見ることが出来ます。

そして、芦屋に日本独自の油彩画を目指した小出瀧重にも、芦屋が一番近い西洋だっただよです。また、長谷川三郎・吉原治良という二人の日本の抽象絵画のパイオニアを生んだ土壌も、阪神間のライフスタイルと無縁ではないでしょう。

それとともに、大正二年の国鉄芦屋駅開設、大正九年の阪急電車開通により、芦屋川を挟んだ山手丘陵地に邸宅建設が伸び、芦屋川を中心とした広大な住宅街が形成されていきました。

ところが、芦屋川を中心とした住宅地の発展も、早くも昭和初年には飽和点に達し、市街地は引き続き打出丘陵地、宮川上流の丘陵地へと発展していき、このように、谷川園有林の一部、これとともに、剣谷園有林の一部、払い下げを受けた株式会社六磨荘の



大正9年、芦屋海岸



昭和12年ごろ、本通り商店街付近

その後、国際ホテルは芦屋女学校の手に残り、現在は芦屋大学となっています。

こうして精道村では、全村に電話・水道、その他の都市施設も相次いで完備し、高級住宅地としての形態を、次第に整えていきました。



製作中の小出瀧重 昭和3年、川西アトリエ

一方新しく精道村に居を構えた資産家たちの中からは、従来の書画骨董だけでなく、洋画を収集するコレクターや、洋画家たちを支援するパトロンが現れました。特筆すべきは、瀧重と書いた山口兵衛と謙四郎の兄弟です。瀧重美術館は、旧三和銀行の前身である山口銀行取であった故山吉郎兵衛が蒐集した古美術・陶磁器・人形(かるた等)を展示していました。

現在の建物は、吉郎兵衛の住宅建築家安井武雄氏設計を改装したもので、近年の関西モダニズム建築二十選の中に含まれています。

また、船場の実業家大正半ばに芦屋に移り住んだ山本英次郎は、短期間に佐伯祐三の作品百五十点余りを収集、昭和十二年には東京で回顧展を開催したり、画集を発行するなど、佐伯への傾倒は並々ならぬものがありました。

音楽の世界では、今年生誕百年を迎える天才的音楽家、貴志康一が大正五年から芦屋に住んでいました。そして文化村に住んでいた亡命ロシア人音楽家と出会い、音楽家・貴志康一となつて、芦屋から世界へ羽ばたいていきました。

また、明治三十八年に精道村で生まれ、後に吉田総理の懐刀と呼ばれた白洲次郎も、貴志と同時代に芦屋で幼少年期を過ごしています。

文学では、富田砕花・谷崎潤一郎をはじめ、山口誓子・高浜千景・星野天来・生田月柳・津沢健・吉沢強・陽野・壺氣・児玉隆男ほか多くの詩人・歌人・文筆者が活躍しています。

写真の世界でも、中山岩太・ハナヤ勲・兵衛・紅谷吉之助らが昭和五年に



ヨドコウ遊覧館(旧山邑邸)・4階食堂。帝国ホテル建設のため来日していたF.L.ライトが、大正7年に設計。大正13年完成(重要文化財)



貴志康一

■時代の中の阪神間文化

明治以降、芦屋に移り住んだ有産階級の人々によって、阪神間文化のベル・エポックが築かれたといっても、過言ではありません。

しかし、阪神間文化の栄華は、昭和五年ごろをピークとし、やがて戦時色に染まっていきました。

昭和15年11月10日。この日、精道村民の長年の宿願であった市制施行が実現、全国で173番目の市として歩き始めました。

そして来年、本市は「市制施行70周年」を迎えます。

市制施行69周年の本年、芦屋市誕生前夜の様子を振り返り、当時の人々の努力と、その思いに触れてみたいと思います。

精道村から芦屋市誕生までの略年表

明治19年	精道小学校成立
明治22年4月1日	芦屋村・津知村・三條村・打出村が合併して「精道村」誕生。精道村に消防組織を開設。 〔明治27年7月～28年4月 日清戦争〕 〔明治37年2月～38年9月 日露戦争〕
明治24年3月	精道村に消防組織を開設。 〔明治27年7月～28年4月 日清戦争〕 〔明治37年2月～38年9月 日露戦争〕
明治38年4月12日	阪神電車開通(芦屋駅・打出駅)
大正元年8月1日	兵庫県芦屋郵便局設置
大正元年8月29日	神戸ガスが打出にガスタンク設置
大正元年11月	ガスの供給開始
大正2年8月1日	国鉄芦屋駅開設
〔大正3年7月～7年11月 第1次世界大戦〕	
大正7年7月13日	村立隔離病舎(精道病院)設置
大正9年7月16日	阪急電車開通
昭和2年4月1日	阪神国道(現2国)開通
昭和2年4月30日	芦屋警察署創設
昭和2年7月1日	阪神国道電車開通
昭和2年9月15日	村営三条火葬場操業開始
昭和3年4月1日	阪神芦屋バス開通
昭和3年7月28日	阪急バス開通
昭和4年4月1日	阪神国道バス開通
昭和6年10月15日	村営塵芥焼却場設置
昭和9年9月21日	芦屋台風により大きな被害
昭和10年5月18日	下水道工事着工
〔昭和11年2月26日 226事件〕	
昭和11年	公光町診療所設置
〔昭和12年7月7日 日中戦争始まる〕	
昭和13年3月30日	奥山浄水場完成。給水開始
昭和13年7月5日	阪神大水害で大被害
〔昭和14年9月1日 第2次世界大戦始まる〕	
昭和15年11月10日	173番目の市・芦屋市誕生
〔昭和16年12月8日 第2次世界大戦日本参戦〕	



右の写真は、昭和初期の城山橋でのスナップ写真。城山橋は、開港橋の北、現在の大橋橋北詰から芦屋川東へかけています。当時としては珍しい写真。この頁の写真は、主に市制施行50周年記念写真展「芦屋今むかし」から転載しています。

全国屈指の富豪村として発展してきた精道村は、昭和十五年一月六日付け内務省告示第五八〇号により、精道村を廃しその区域をもって芦屋市を置くことが認可され、同月十日時あたかも皇紀二六〇〇年記念祝典挙行の日を期して市制を施行し、ここに芦屋市の誕生を迎えました。

芦屋市は、全国で一七三番目に来た市ですが、とくに重要なのは、村から一躍して市になったことです。また新市名には、精道村の大字名であった芦屋が全国的に知られていたため、これを市名としました。同年十一月二十六日には、初めて

精道村から芦屋市へ



▲昭和15年11月10日、市制施行祝賀式(精道小学校)
▼市制施行を祝う市民(市役所前)
▼下欄は、当日の新聞(平田町・八木幸一氏提供)

十人の議員が選出されました。翌十六年一月九日の市議会で、初代市議長に山村伊左衛門氏、副議長に高津久四郎氏が選出。次いで一月三十一日には、それまで臨時市長を務めていた大村右五郎氏が初代市長に就任。さらに二月十日には、初代助役の篠鹿一氏、初代収入役に矢島未蔵氏がそれぞれ就任し、初代市役が揃いました。

この一方で、市制施行の年には日独伊三国同盟が結ばれ、昭和十六年十二月八日、日本も第二次世界大戦へと参戦して

11月 11月11日(日) 17時30分

芦屋市広報番組 あしや30 (30分)

オープニング	うんじゃ隊の心	8:30
芦屋市の動き	第21回あしや秋まつり	12:00
芦屋市政カラ	「子ども」「平和」「人権」	16:00
トピックス	学習と交流の場 上宮川文化センター	19:00
	第37回高齢者スポーツ大会	
	あしや・いち	22:30
おしらせ	貴志康一誕生100年記念演奏会	
アップdeGO!	「うまいもん」と大坂産物	
市民の時間	三世代であそぼう!	※DVD
エンディング	浜風亭保国園「ともだちになるために」	VTR

■「J-COM特別番組」放送のため、11月29日(日)の③④の放送はありません。
■アナログ放送は9chで、地上デジタル放送は11chでご覧ください。
■番組に関する問い合わせ 広報課 ☎38-2006 ■CATV全般に関する問い合わせ 機ケーブルネット神戸芦屋(J-COM)カスタマーズセンター ☎0120-13-8160

上宮川ワンコインシアター シェーン

■日時 11月14日(土) 午前10時30分～(10時開場) 午後2時～(1時30分開場)

■会場 上宮川文化センター 3階ホール ■参加費 中学生以上500円(当日券のみ) 満席の場合は、入場を制限することがあります。

問い合わせ 上宮川文化センター ☎22-9229

貴志康一誕生100年記念演奏会 ～尾高尚忠と共に～

■日時 11月19日(木) 午後6時30分開演(6時開場) ■会場 ルナ・ホール ■出演 豊田喜代美(ソプラノ)・伊藤亮太郎(バイオリン)・尾高尚子(ピアノ)・小坂圭太(ピアノ)

■チケット 2,500円(当日3,000円) ■発売所 市役所売店・市民センター・事務所・グリーン薬平・チケットぴあ(Pコード337-595)

問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2091

谷崎潤一郎記念館の催し

【「関西文化の日」は、入場無料】

■日時 11月7日・21日(土)午後2時～(1時間以内) ■参加費 要観覧料

【ロビーギャラリー】 手づくり人形展

■期間 11月4日～29日 ■内容 人形作家・箱石潤子の手づくり人形展

【1日教室】 フランス人形ぬいぐるみ教室

■日時 11月15日(日) 午後1時～4時 ■講師 人形作家・箱石潤子 ■受講料 4,300円(教材費含む) ■定員 16人 ■申し込み 下記へ

問い合わせ 記念館 ☎23-5852

美術博物館の催し

【うまいもん」と大坂産物 列品解説】

■日時 11月7日・21日(土)午後2時～(1時間以内) ■参加費 要観覧料

【後期古文書講座】 六甲山山麓の寺社

■日時 11月18日～3月17日(水) 午後2時～3時30分 全5回 ■定員 30人 ■受講料 2,000円 ■申し込み 往復はがきで、11月9日までに下記へ

【岡登志子×高瀬アキ 即興公演2009】

■日時 11月14日(土) 午後7時開演 ■会場 ホール ■チケット 2,000円(当日2,500円) ■申し込み 下記へ

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432 (〒659-0052 伊勢町12-25)

ひょうご邦楽の祭典

<平成21年度 ふれあいの祭典>

■日時 11月3日(火) 祝 午後1時～(0時30分開場) ■会場 ルナ・ホール ■出演 星田山一、菊聖公、菊重精峰、望月さより、雅会(古結直美社中) 琴唱会(菊枝社中) 生田流新絃社、武庫川女子大学附属中学校・高等学校、芦屋山手コーラス、芦屋三曲協会 ■申し込み 市民センターで入場整理券を配布します

問い合わせ 市民センター ☎31-4995

第15回 芦屋能・狂言鑑賞の会

<第11回阪神芸術祭参加事業>

■日時 11月27日(金) 午後6時～(5時15分開場) ■会場 ルナ・ホール ■入場料 指定席3,500円・自由席3,000円 当日3,500円(自由席のみ) ■演目 「高砂 観世喜正」「野宮 観世鏡之丞」「蝸牛」 茂山千五郎・茂山七五三ノ「一角仙」・辰山禮三郎ほか

■チケット発売所 市民センター・事務所・グリーン薬平・市役所売店・ローソンチケット(Lコード52393)